

大学の知的財産権活動 現状と課題

2003年 12月 17日

慶應義塾長

安西祐一郎

1、動き出した大学の知財活動

(1)慶應義塾大学の現状

・平成10年 知的資産センター設立 (承認TLO)

・平成15年 「大学知的財産本部整備事業」に選定。

・実績 特許 524件 (平成15年度134件)

ライセンス 81件 (平成15年度21件)

理工学部における知財サービスの利用状況

	在籍者数	利用者数	%
教授	132	50	38
助教授	59	27	45
専任講師	35	10	29
助手	23	18	78
計	249	105	42
学生		129	

(2003²年 8月)

(2)商品化の状況 (一部)



プラスト(株)



イースト(株)

PowerRec

フォトロン(株)

社会科学情報
検索システム

日経QUICK
情報(株)



電気泳動質量分析装置

日本カノマックス(株)

TL王

アジレントテクノロジー(株)

慶應義塾

抗ヘムオキシナーゼ-1
モノクローナル抗体

タカラバイオ(株)



内田洋行(株)

医用レーザー
の安全性

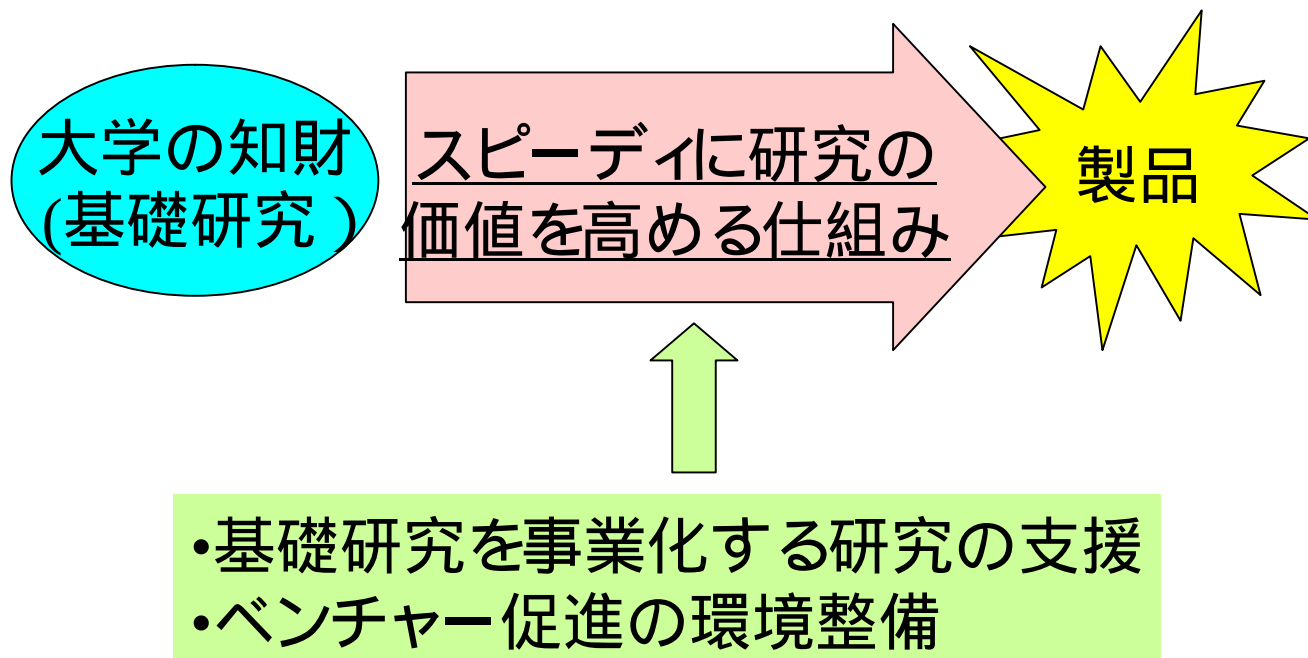
アトムス(株)³

2、更なる発展に向けた課題

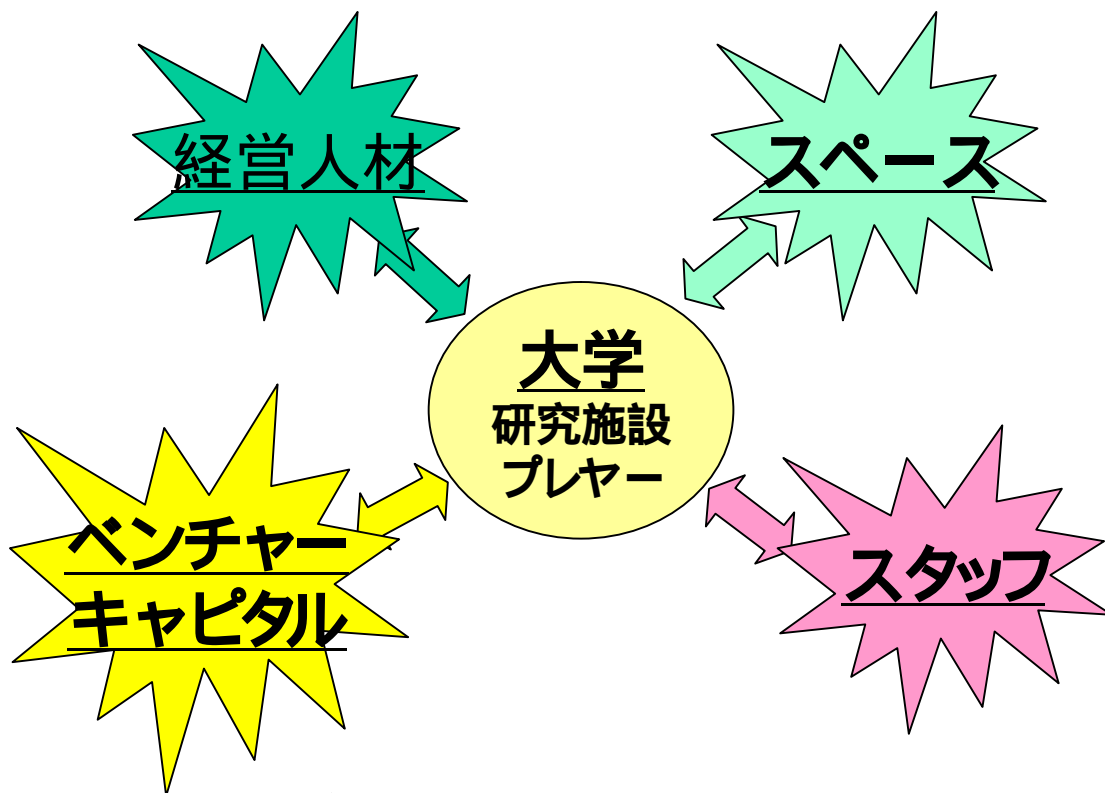
- (1) 知財に関する複数年度予算の実現
 - 単年度主義の特例(知財活動の健全化)
- (2) ベンチャーサバテカル制度の導入
- (3) 研究資金のオーバヘッドの充実
 - リサーチ・アシスタントの処遇改善
 - 知財経費の確保
- (4) 日本版バイ・ドールの明確な運用
 - 各機関で共通した運用を構築
- (5) 共有特許制度の再検討
 - 米国並みの法制の導入
- (6) 研究の融合、研究とビジネスの融合の促進

3、大学の知財の活用の課題

大学の知財を事業化するには



大学発のベンチャーが動き出すには・・・



これらがクリティカルマス(臨界状況)
になることが必要

そのためには

(1) 経営人材の確保

- 人材流動化促進プログラム

(2) インキュベーション施設の拡充と運営人材の養成

(3) 創業支援の仕組みの強化

(4) 大学の関与を許容

- スタートアップ支援
- エクイティの取得